

## 第3回佐久市都市計画審議会

日時：平成24年2月28日（火）

午後1時30分～4時00分

場所：佐久市役所建設部 会議室3

### 1 開 会

### 2 あいさつ

（ 現 地 調 査 ）

### 3 議 事

#### （1）議事録署名委員の指名

#### （2）事務報告

##### ①傍聴者報告

##### ②前回（第2回）議案の処理状況等報告

#### （3）調査審議

社会資本整備総合交付金事業（岩村田西地区）事後評価について

事務局による説明

質疑・意見等

（委員） 5ページの指標1のところ、従前値が12時間で16,300台、これは旧道の方ということですね、それで目標値が平成23年10,493台、これは道路ができていないから評価時期ではないと、それでこの5,000～6,000台の差はどこにいったのか疑問ですが。

（事務局） 正確には裏付けはとっていないのですが、現在4車線の141に出る小諸方面からきた場合、御影などの方面を回って向こうに出るものが増えているか、あるいは県道等を通して迂回しているかということで、とった時期も違いますので、正確にはそこまで把握できていないのですが、そういうことだと思います。

（委員） 思った以上の数値だ。

（事務局） そうですね。我々も驚いたのですが。

（委員） 道路ができていないのに、それだけ変わったということですね。

(事務局) だいぶ、中部横断ができたり、道路状況が変わっていますので、目的が今までそこを通らないと行けなかった部分が他の路線に振り変わったということが考えられます。

(委員) それからもう1つ、佐久大学の関係で人口の流出についても評価の対象にしていますが、ちょっと無理がある気がする。これだけで佐久市全体の人口流出を抑制できる問題ではないと思いますがその辺はどうですか。

(事務局) 確におっしゃるとおりで、目標設定に多少無理があるところがありまして、それを補完するというので、今追加で、駅の乗降客等を含めて補完するものを考えていますが、確かに先程の大学の説明の中にもありましたが、生徒数全体も減っているという状況の中では、指標的には馴染まない部分があったかなと思います。

(委員) ちなみに、今度第1期生が卒業されるということで、佐久病院で入られる方が多いとか、そんな傾向が。

(委員) 佐久病院に限らずこの地域の浅間病院とか、小諸の病院とか、かなりの方が地元で、今までだとまた戻ってしまうが地元に残るようになったと言えると思います。

(委員) もう1ついいですか。先程の現地視察でもありました中佐都インターは非常に使い勝手が悪くて、いろいろ標識を付けて緩和していきたいという説明があったが、委員の皆さんで話をした中では、それだけでは抜本的な解決にはならないのではないかという意見が多かったと思うが、抜本的な解決として、道路を変えるとかはできないのですか。

(事務局) 道路というのはインターの形状をとということですか。周辺の道路ですか。

(委員) インターの出入りのアクセス道路です。非常に取り付け道路が今は違う取り付け道路で評価していますが、それがよりいっそうこの数値が有効になるにはインターの出入りがもっとスムーズになると効果が出ると思う。そのところで標識を新しく設けてカバーしたいという説明だったのですが、それが場合によっては、かえって複雑になり、分かりにくくなるということだって考えられますよね。だから、やはりあそこをどうして難しい道路にしてしまったのか素人の考えですが、他所のインターを見るともっと簡単にできるのではないかと思うが、無理なのですか。

(事務局) 道路の形体で小海線が上をとおり、道路が下をくぐる構造で勾配があり、どうしてもあの辺に行かないとインターとしての勾配がとれないという状況の中であの場所になっている。あの場所で大きな道路、いわゆる国道や県道がないがために、佐久大学方面から中佐都方面にいて新たに道路を整備しなくては行けないということから、結局その道路の位置とインターの位置の距離があまりにも長すぎたために起きた不便さだと思っています。先程、私もバスの中でお話しさせてもらいましたが、あそこの信号が中佐都IC北という名前になっていますが、入口という名前に変更してもらったり、中佐都インターへの方向の標識を出すことによって、ある程度カバーできるのかなとみているので、私も現地を見て北とい

う表示を見て入口ではないのかと思いましたが、その辺は表示の変更を要請しながら、他の標識の対応等はできますが、利便性のいいようなものにしたい。一番は琵琶島方面からこちらへ抜ける道路が通って初めて効果が出ると思いますのでその状況を含めて検討していかなければいけないと思っています。

(委員) 長土呂のことなんですが、広くいい道ができるなど感じています。2ページにもありますように、新幹線駅へつなぐいい道路ができると思いますが、一方、あそこに小学校ができて、ただ単純に道路ができて車の通りが多くなっていいという話だけではなく、そういう意味で小学校ができて500~600名の生徒が毎日通学することになると、大変危険も伴ってくるので、そのあたりの安全対策が十分ではないと、車や人がいっぱい来るからいいにはならないと思うので、その辺の対応は十分検討されているんですね。

(事務局) 実際のところは、小学校の計画が後だったというところがあるが、そういった心配も出てきている中で、できるだけ配慮したいということで、できるだけその辺りも配慮したいので警察の方とも協議させて頂き、信号設置箇所等についても配慮頂いています。そういった協議できるものについては協議をして、現在進めているところです。

(委員) 一つは、そういった道路ができて地域が便利になるのは非常に良いことで期待もしているが、定住化という意味で考えていくと、必ずしも便利になるから良いということにはならないので、やはり安心、安全というのが頭にあると思うので、その辺のところで定住する人、しない人が決まってくる気がする。そういう意味では当然安全の方が良いので、その辺をきちんと整理して頂いて加味しながら進めて頂かないと、町が大きくなって良かったというだけでは困るので、その辺を十分準備しながら進めて頂きたいと思います。

もう一つは若者の定住化で、今の内容とだぶるが、若い人、若い夫婦がこの佐久市に定住することになると、先程も言ったように安心、安全といった部分がどうしても出てくるのでその辺を考えて、5ページにある若者の定住化のところ、今までよりも目標値よりも評価値は落ちているわけなんですよ。そういうことを考えると、環境をきちんとした上で若い人を呼び込んでいくことが大事だと思うので、今日は大学に行って先生にも伺ったが、今年の卒業生が約90名で、大体3分の1が佐久市内に就職して、あと残りもほとんど県内に留まる人が多いだろうという見通しを言っていました。いま看護師さんが足りない、病院関係で人員が不足しているということになれば、佐久市としても一人でも多く地域に留まってもらえるような対策、あるいは大きい病院でなくてもいろいろな所で就職活動しているのであれば口利きをしてあげるということを心がけてもらいたい。それが若者の定住化、大学生の定住化ということに結びついてくるのではないかと思うので、是非そんなことも念頭において取り組んで頂ければありがたいと思います。

(事務局) 貴重なご意見受け賜り、今後の参考にさせて頂きたいと思います。

(委員) 今日最初に視察しました、近津神社の前の道路が整備された場合、長土呂地籍がどうなっていくのかと思いついて見ましたが、道路が開いた場合、両側に

必ず経済効果を考えていくといろいろなコンビニとか小売店が進出してくると思いますが、それらが進出してきた場合、かなり道路の両側を見た場合に現状は畑だと思っていたのですが区画が広くみえたのですが、あの広い敷地にはこれから商店などを誘致できるのか、今日見たところでは、道路の両側が農振かそういう地籍にみえたのですがその辺はどうなのですか。動きとして今すでになにかあるのか、今後とも入りやすい場所になると思うのでそういう人が集まるような、雇用に繋がるような施設とかが出来てくるのですか。

(事務局) 今回、近津で進めている事業は道路の整備と同時に、区画整理事業を取り入れていて、南北に走っている幹線の近津砂田線の沿線については区画整理事業を導入して面整備をしています。要はもともと畑地だったのですが、道路も細い道路しかなかったが、そこへ幹線道路が開きましたので、その両側の土地も区画整理して形状をなおし、民地ですが、開発されてもいいような形で両側も整備されているので、あとは地権者の皆さんがどういう形で利用されるかというところがありますが、佐久平が既に土地利用がいっぱいになっていますので、そういった所から溢れた土地利用の需要等の受け皿になると考えていまして、それに対応できるような形で、面整備も併せてやっている地区になります。土地利用は今後進んでいくというふうに、市では考えています。ただ、あくまでも民地ですので個人の方がどういう使い方をされるのかというところがあります。

(委員) 道路の両側の畑にしても区画整理で、所有者が確保しているものが、いずれ農業振興区域などに指定された場合に外れるのかどうか。何年間はだめということになると通過する道路になってしまう。

(事務局) あそこについては、用途がもう既に指定されていまして、農地ではありますが転用は可能な土地になっています。

(委員) 初めて委員になりまして、時系列がよく分からないのですが、事業が19年から23年で終わりという中で評価しろという形だが、今日これで審議をして評価をするということなのか。その辺がよく分からないのですが。

(事務局) 事後評価ですので、事業が終わる最終年度に評価をなさいということになっていて、それについては当初ここにあるような指標を決めまして、それが達成されたかされないかということが一つと、これに基づいて事業をしてきた中で、今回事後評価する中で今後に生かしていかなければいけない部分があるかななどをご意見として頂き、今後、達成されたことはこういうことです。それから今後こういうことを生かしていきますということを、今回ご意見等を伺いまして、これを今後に生かしていくという場になります。

(委員) 岩村田西地区の都市再生整備計画についてというのはここでということ、今度またこういった案件があった時の次のために基礎的なものをこういうことを考えていきたいということですか。沢山資料が付いていますが、ぱっと見て良く分からないのですが、今まで説明頂いた所はどうにか理解していますが、従前の目標値というのがありますが、例えば平成11年のデータと平成23年の数値を比べて、それが目標に達したから丸とか三角という評価はいかがなものかと。12年ほどの時系列があるわけですが、当然先程ありましたように、その間に中部横断自

動車道ができたりする中で、それがただ目標達成したかどうかだけ、もしくは中佐都インターの方ですが、当初からの目的が270台が500台に増えたから、これが二重丸でOKだよという単純な評価なのかという質問です。それから先程のご指摘もありましたが、合併してから10代20代の人口が旧佐久市レベルではどうなのか、臼田町、浅科、望月を抜けた場合どうなるのかというの、先程お話があったとおり全て佐久大学さんで評価して、目標達成できないから新幹線の乗降客をデータにというのは、テクニカルな問題もあると思いますが、中間の見直しがあつてしかるべきではないかと、これからのことでとおっしゃられたので失礼とは思いますが申し上げます。

(事務局) 確かにおっしゃる通りで、古いデータもあつたりして、これでどうかというご指摘も、ごもつともだと思えますが、今回設定した時にデータの的に揃っているものが直近のものを使ったのですが、古いデータと思われる部分もあろうかと思えます。今、ご指摘頂きましたように指標として適切かどうかという部分で、微妙に思われるのも確かです。我々も設定がいまいち馴染まなかったと反省する点が多々あります。そういったことも含めて、今後もつと的確な指標を設定していきたいと思えます。

(委員) 今の評価のことで、例えば一番分かりやすいのは、長土呂地区のこれはまだ開通していない段階で評価ということなので、また何年か後にもう一度やるわけですか。

(事務局) はい。先程、最後にお話し申し上げましたけれども、最後にフォローアップ計画ということで説明させて頂いた11ページですが、25年の10月頃を目処に、開通が今のところ今年の8月頃を予定していますので、それ以降の適当な時期に実施したいと考えています。

(委員) やはりこれは道路が出来上がってから、交通量がどう変わったのかが問題だろうと思えます。もう1つ大きく見なければいけないのは、あの道路の部分だけでなく、ヤマダ電機のある道路の辺からここに書かれている小諸方面へ行くところが大きく影響すると思えます。だから今の状況の評価より、やはり開通してからの評価をするべきだろうなと思えます。私はこの道路に期待していますが。

(事務局) フォローアップでその辺は対応したいと思います。

(委員) 私も佐久大学の前の道路を通っているのですが、インターからの交通量が増えている感じはします。事故も増えているのではと思えます。

(会長) 意見が他になければ、今後、委員さんから頂きましたご意見を参考にして、適切な事後評価を進めて頂きたいと思えます。

4 その他

なし

5 閉 会